



Ian Bremmer 世界の政治リスク分析  
定評 著書『ハバーク・セロ  
時代のアメリカの選択』など 認識  
Twitter @ianbremmer

デジタル技術は多くの面で私  
たちの暮らしを良い方向に変えてい  
るが、2008年には新たな懸念  
があらわになるだろう。偏ったテ  
ィタにまつアルゴリズム（計算  
手続）の有害な判断が、数十個人  
の暮らしや働き方に影響を及ぼ  
し、オンライン上の暴徒が暴動を  
あおり、ハッカーが私たちの情報  
を盗む。こうした脅威は全て、  
巨大テック企業がルールを決める  
デジタル空間で拡大する。

これは今までにない事態だ。こ  
れまでは国民国家が国境を定め、  
社会や暮らしのルールを執行して  
きた。今は、巨大テックが全く新  
しい次元の地理学や経済、社会的  
交流を設計・構築し、管理してい  
る。人々が何を見聞きするかを決  
め、私たちの思想に影響を及ぼす  
アルゴリズムを作っている。

日々の暮らしの重要な部分だけ  
でなく、国家に必要な機能の一部  
さえもデジタル世界に依存する  
ようになり、社会をきちんと統治  
する意思も能力もないテック企業  
が未来を形作るようになって。22  
年には、個人が仕事でも家でもデ  
ジタル空間で過ごす時間が増える  
経済システムもいずれば分散  
型のブロックチェーン技術を基盤  
としたものになるだろう。

各国政府はこうした状況に歯止  
めをかけるようにしている。欧州連  
合（EU）は2022年、巨大テックの  
ビジネス慣習の一部を制限する新  
法を制定する。米規制当局は反下  
ラスト法（独占禁止法）訴訟を進  
め、デジタルプライバシーを守る  
新たな規制策定に着手する。

だが、これらは戦略ではなく規  
制上の戦術にすぎない。巨大テック  
の巨額な利益や影響力に切り込  
む政府は当面あらず、巨大テ  
ックプラットフォームが君臨し続ける  
デジタル分野への投資力を制限し  
ようとする言もいらない。

中国もこうした問題を無視して  
いない。中国には世界で最も発達し  
たネット検閲システムや監視体制  
があり、習近平（シ・ジンピン）  
国家主席は大きくなりすぎたとい  
なす企業をもう一つよく取り締  
まる。だが、中国共産党は一党独  
裁体制を維持するために、暗闘で  
回復力のある経済成長を必要とす  
る。起業家精神にあふれた有能な  
テック業界の開拓者や民間企業に  
対する習氏の締め付けが度を越せ  
ば、デジタルインフラの発展が妨  
げられ、長期的には生産性や生活

## 国家しのぐ巨大テックのリスク 米ユーラシア・グループ社長 イアン・ブレマー氏

水準を高められなくなる。多くの  
場合、中国政府が体制への潜在的  
な脅威とみなしている企業（ま  
たは、経済として不可欠な）で  
ある。これは民主主義国家が強権  
国家がにかならず、この国に  
ても根本的なシレンマだ。

今の世界にはリーダーがいな  
い。新型コロナウイルスのパン  
デミック、世界的大進出への対応  
や気候変動、紛争解決、移民や難  
民への協力的対応など、グロー  
バルな問題をこじ取りする意思と  
能力を備えた国も常設の国際的組  
織もない。もちろん、デジタル空  
間の統治はさらに貧弱だ。巨大テ  
ックは政治権力に匹敵する統治の仕  
組みがない発展途上国のような  
経済は急成長しているが国民に教  
育を施し、安全を守る能力がまだ  
伴わない。国と国境、自らが生み  
出した新しい新たな空間やツール  
を統治する能力も意思もない。

巨大テックの統治不全は社会や  
ビジネスに損失をもたらす。22年  
の米中間選挙の前にはデマが広  
がり、米国の民主主義への信頼は一  
段と低下するだろう。テック企業  
と各国政府は、データのプライバシー  
と安全を備えた人工知能（AI）  
の利用、サイバーセキュリティ  
の統治巡って結果できない  
ため、こうした問題を巡る米中の  
緊張は高まることになる。

グローバルな問題に対し有効な  
解決策を講じられる国、もしくは  
企業は存在しない。このため各国  
政府の威信はさらに低下し、社会  
契約のほころびは拡大するだろ  
う。これが今の世界の現実だ。